

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)	
授業科目名：幼児教育方法論 英語表記：Early childhood Education Method ナンバリング：2311			単位数：2単位 位 (半期)講義	担当教員名：塚越亜希子 担当形態：単独
科目／系列		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目／		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）／		
【授業の到達目標及びテーマ】				
1. 幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考え方に基づいて保育の環境構成を 考えることができる。 2. 幼稚園教育要領に基づく基礎的な幼児指導、幼児理解の考え方を踏まえた保育の目的に適し た指導技術を身につけることができる。 3. 幼児の興味、関心を高めるための適切な教材活用(情報機器の活用も含め)などを踏まえた模 擬実践を行い、それらを基に、計画-実践-評価-改善のあり方を省察し他者に説明できる。				
【授業の概要】				
これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方 法、教育の技術、情報機器及び教材の活用について様々な視点から考察し、幼稚園や保育所、 認定こども園における保育者の役割を考え、具体的な援助や指導の方法を学ぶ。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性
【知識・理解・技能】				
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				
【思考・判断・表現】				
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○
【関心・意欲・態度】				
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				
【授業計画】			【授業時間外の学習】	
第1回：幼児期に育みたい資質・能力を育成するための基本的な考 え方とその実践方法の基礎を学ぶ。			(各1時間)	
第2回：教育方法の基本を通して遊びの中で、幼児が主体となり、 協同的な学びのある保育について理解する。			・「幼稚園教育要領解説とポ イントと 解説」「総則」を 熟読してまとめる。	
第3回：保育を構成する基本的な環境について理解して、現場に即 して実践を考える。			・「幼稚園教育要領解説とポ イント」を熟読して「遊び を通した総合的な 指導」に ついてまとめる。	
第4回：様々な保育形態と保育方法について理解し、幼児にとって 必要な教材、教具や環境について考察する。(視聴覚教材を 用いて)			・「幼稚園教育要領解説とポ イント」を熟読して「環境 を構成する視点」について まとめる。	
第5回：幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を身につける。			・保育における評価の考え方 をまとめる。	
第6回：5領域の考え方を理解した上で、幼児が興味・関心を持てる 課題を自らつかむための、幼児教育の方法を考案する。				
第7回：基礎的な幼児教育の考え方を踏まえて、ねらい、内容を考 え教材・教材意義とその指導方法を考える。				

第8回：小学校教育との接続も踏まえた幼児の指導方法を考える。 第9回：幼児と環境との関係を考慮しながら、情報機器の効果的な活用について考察する。 第10回：季節や行事も踏まえ幼児の発達に沿った幼児の興味関心をひき、学びにつながる指導案を立案する。 第11回：作成した指導案を基に、ねらいを基に教師の話法、保育展開の方法、保育技術の活用を考え模擬保育の準備をする。 第12回：模擬授業を体験する（幼児・教師・観察者・助言者）① 第13回：模擬保育を体験する（幼児・教師・観察者・助言者）② 第14回：模擬保育を通して振り返り、計画－実践－評価－改善を考察する。環境の再構成を考える。 第15回：模擬保育を通して振り返り、自らの幼児教育の方法についての今後の課題を話し合い、発表する。 定期試験：なし		・「幼稚園教育要領解説とポイント」を熟読し「各領域に示す事項」についてまとめる。 ・様々な教材研究をする。 ・小学校以降の生活・学習とその接続についてまとめる。 ・幼児の情報機器活用について調べる。 ・発達年齢を踏まえた指導案を立案する。（運動・制作・遊び・音楽など） ・3歳児の指導案を作成する ・4歳児の指導案を作成する
【授業の方法】 講義、演習、アクティブラーニング型。課題に対して次の授業でフィードバックする。		
【テキスト】 『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』（いずれも平成30年フレーベル館）		
【参考書・参考資料等】 適宜配布する。		
【学生に対する評価】 模擬保育（40％）、小テスト（20％）、授業参画度等（20％）、レポート（20％）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。		
【履修上の注意】 幼児教育の方法を理論より理解した上で、指導案を作成し、模擬保育を行う。各授業のまとめ、指導案などの提出物は必ず期限内に提出すること。また、模擬保育は、環境構成、服装、言葉、振り返り発表など全てを含めて教員評価及び学生評価を行う。真摯に準備して実践に向かうこと。		
実務経験の有無：有		実務経験：元幼稚園教諭
【実務経験を生かした教育内容】 私立幼稚園、公立幼稚園で担任としてクラスを運営してきた経験を活かし、保育者として求められる知識や技術、心得について具体的に講じ、保育を展開していくための方法やポイントを実践的に身につけられるよう授業を行う。		